

第 2 期中期目標期間終了時の検討（評価結果・取組状況の概要）

1 各年度評価及び見込評価結果の概要（評価委員会評価）

(1) 全体評価・項目別評価結果

	全体評価	項目別評価			
		大学の教育研究等の質の向上に関する目標	法人の経営に関する目標	自己点検・評価及び情報の提供に関する目標	その他業務運営に関する重要目標
H28	順調に進んでいる	順調に進んでいる	順調に進んでいる	順調に進んでいる	おおむね順調に進んでいる
H29	順調に進んでいる	順調に進んでいる	順調に進んでいる	順調に進んでいる	順調に進んでいる
H30	順調に進んでいる	順調に進んでいる	順調に進んでいる	順調に進んでいる	順調に進んでいる
R1	順調に進んでいる	順調に進んでいる	順調に進んでいる	順調に進んでいる	順調に進んでいる
見込評価	良好である	良好である	良好である	良好である	良好である

(2) 数値目標の達成状況（R1 までの実績）

	中期計画	達成状況																		
教育	TOEICスコア650以上を取得する学生数：100名以上 (No.39)	○TOEICスコア650以上を取得した学生数 (単位：人) <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人数</td> <td>84</td> <td>115</td> <td>117</td> <td>116</td> </tr> </tbody> </table>	年度	H28	H29	H30	R1	人数	84	115	117	116								
	年度	H28	H29	H30	R1															
人数	84	115	117	116																
令和3年度におけるインターンシップ参加学生数：75名以上 (No.58)	○インターンシップ参加学生数 (単位：人) <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人数</td> <td>83</td> <td>79</td> <td>78</td> <td>59</td> </tr> </tbody> </table> <small>※学内の事前・事後研修を受講し、5日以上のインターンシップに参加した学生</small>	年度	H28	H29	H30	R1	人数	83	79	78	59									
年度	H28	H29	H30	R1																
人数	83	79	78	59																
研究	外部研究資金の新規獲得件数の総数（6年間）：第1期中期計画期間総数の20%増（約28件）(No.71)	○科学研究費補助金新規獲得件数 (単位：件) <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>1期計</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>23</td> <td>3</td> <td>5</td> <td>8</td> <td>8</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>24</td> </tr> </tbody> </table> （4年目達成目安約19件に対し約126%）	年度	1期計	H28	H29	H30	R1	R2	R3	計	件数	23	3	5	8	8	—	—	24
年度	1期計	H28	H29	H30	R1	R2	R3	計												
件数	23	3	5	8	8	—	—	24												
地域貢献	講座等イベント参加者数の総数（6年間）：第1期中期計画期間総数の5%増（約42,531人）(No.75)	○イベント参加者数 (単位：人) <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>1期計</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>参加者数</td> <td>40,505</td> <td>10,515</td> <td>11,838</td> <td>6,458</td> <td>4,557</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>33,368</td> </tr> </tbody> </table> （4年目達成目安約28,354人に対し約118%）	年度	1期計	H28	H29	H30	R1	R2	R3	計	参加者数	40,505	10,515	11,838	6,458	4,557	—	—	33,368
年度	1期計	H28	H29	H30	R1	R2	R3	計												
参加者数	40,505	10,515	11,838	6,458	4,557	—	—	33,368												

	受託事業等の受入れの総数 (6年間):第1期中期計画 期間総数の20%増(86件) (No.78)	○受託事業等受入件数 (単位:件)								
		年度	1期計	H28	H29	H30	R1	R2	R3	計
		受託事業	47	14	18	19	16	—	—	67
		受託研究	11	7	3	1	1	—	—	12
		共同研究	13	5	2	1	4	—	—	12
		計	71	26	23	21	21	—	—	91
		(4年目達成目安約57件に対し約106%)								
グローバル化	令和3年度における外国人 留学生受入人数:50人(No. 92)	○外国人留学生受入数 (単位:人)								
		年度	H28	H29	H30	R1				
		協定校	16	16	15	18				
		外国人入試	17	17	15	22				
		研究生等	0	2	7	6				
		計	33	35	37	46				
グローバル化	令和3年度における交流協 定締結校数:20校 海外派遣学生数:60人 (No.93)	○交流協定校数 (単位:校)								
		年度	H28	H29	H30	R1				
		校数	10	10	11	13				
		○海外派遣学生数 (単位:人)								
		年度	H28	H29	H30	R1				
		人数	74	67	73	89				
法人経営	育児休業取得率:女性100 %、男性期間中1人以上 (No.106)	○育児休業取得率 (単位:%、人)								
		年度	H28	H29	H30	R1				
		女性取得率	100	100	100	100				
			男性取得数	0	0	0	1			
	育児に係る諸制度(育休以 外)の利用者:2人以上 (No.107)	○育児に係る諸制度利用者数 (単位:人)								
		年度	H28	H29	H30	R1				
		利用者数	2	2	6	7				
令和3年度における管理的 経費:平成28年度より5% 削減(No.118)	○育児休業取得率 (単位:千円、%)									
	区分	H28	H29	H30	R1					
	管理的経費	882,089	846,504	868,093	815,241					
	削減率(28%比)	—	▲4.0	▲1.6	▲7.5					

(3) 主な成果と課題

○教育・研究

	中期計画項目	取組・実績等	成果・課題の現れ																														
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・アクティブラーニングによる教育活動やグローバル人材育成の状況など、高校側のニーズを的確に把握した広報を展開する。(No.9) ・進路指導担当の高校教員や保護者に対し、本学の特色や魅力を伝える取組をより効果的に実施する。(No.11) 	<ul style="list-style-type: none"> ・高校教員向けの授業見学・説明会の開催 (H27～)。H30 年度から 2 日間の開催へと拡充 ・オープンキャンパスの改善 (全体の統一感、目的・ターゲットの明確化による各学科企画の見直しと取捨選択、スリム化) 	<ul style="list-style-type: none"> ・①高校教員向け授業見学・説明会参加人数、②オープンキャンパス参加人数が年々増加している。 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①</td> <td>76</td> <td>85</td> <td>100</td> <td>118</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td>2,945</td> <td>3,041</td> <td>3,183</td> <td>3,892</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・『2021 年版大学ランキング』(朝日新聞出版、2020 年)の高校からの評価ランキング(公立大学)において 11 位と高い評価を得ている。 ・志願者数・入学者数の維持(学部全試験平均) <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度※</th> <th>志願倍率</th> <th>実質倍率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H28</td> <td>6.2</td> <td>3.4</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>6.0</td> <td>3.3</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>5.8</td> <td>3.7</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>5.2</td> <td>3.3</td> </tr> </tbody> </table> <p>※実施年度</p>		H28	H29	H30	R1	①	76	85	100	118	②	2,945	3,041	3,183	3,892	年度※	志願倍率	実質倍率	H28	6.2	3.4	H29	6.0	3.3	H30	5.8	3.7	R1	5.2	3.3
		H28	H29	H30	R1																												
	①	76	85	100	118																												
②	2,945	3,041	3,183	3,892																													
年度※	志願倍率	実質倍率																															
H28	6.2	3.4																															
H29	6.0	3.3																															
H30	5.8	3.7																															
R1	5.2	3.3																															
<ul style="list-style-type: none"> ・地球規模で人類の営みをたどる文明史の観点から観光を捉え、観光産業と芸術文化活動を融合できる能力を持った人材を育成するカリキュラムを編成する。(No.16-2) ・伝統建築・伝統工芸において受け継がれてきた知識や技能を理解し、現代にふさわしい空間や工芸物を提案できる人材を育成するカリキュラムを編成する。(No.16-3) ・学生の主体的な課題発見能力・解決能力の向上のため、実践演習など企業・地域等と連携した教育を充実させる。(No.19) 	<ul style="list-style-type: none"> ・文明観光学コース、匠領域の設置 ・中日新聞社・静岡新聞社と共同連携授業に関する協定に基づく特別共同授業の実施 ・静岡銀行との協定に基づく地域連携演習の実施 ・フェアトレード大学として認定 (H29) 	<ul style="list-style-type: none"> ・特色のある教育内容の充実により、大学の魅力向上につながっている。 ※学生確保につなげていく必要がある。 ・浜松市と共催のフェアトレード全国フォーラム in HAMAMATSU、エシカル・ラボ in 静岡への参加、地元企業と連携した「はままつチョコプロジェクト」など、産業界、行政等と連携した教育、学生活動が実施されている。 																															
<ul style="list-style-type: none"> ・eラーニング等、高度なメディアを利用した教育方法を取り入れる。(No.20) 	<ul style="list-style-type: none"> ・LMS(学習管理システム)の導入・活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・双方向授業による講義の活性化など教育方法の充実が図られた。 ・システムを活用した授業アンケートの実施により、作業の効率化と経費の削減を実現。 ※国内外の大学との交流、公開講座やリカレント教育などにおいて、アフターコロナ時代に対応した、ICTを活用した新しい試みが期待される。 ※デジタル化に伴う通信量の増への対応が必要 																															

	中期計画項目	取組・実績等	成果・課題の現れ															
	<ul style="list-style-type: none"> ・留学生に対して、学内情報の案内、教職員や日本人学生との交流促進、日本語習得の支援など、学習環境を充実させる。(No.46) ・教職員協働体制を推進し、支援内容に応じた資格や能力を持った適切な人材を配置するとともに、学生ボランティアによるピア・サポートを育成するなど、多様な学生への支援を強化する。(No.47) 	<p><障害のある学生への支援></p> <ul style="list-style-type: none"> ・長期履修制度の創設 (H29) ・修学サポート室の強化 (室長 (学生部長兼務)、修学支援専門員 1 名、コーディネータ教員 2 名、事務職員 (教務・学生室職員兼務) 1 名) <p><外国人留学生への支援></p> <ul style="list-style-type: none"> ・留学生 SA 制度の導入 (H30) ・ピア・サポート・コーナーの設置 (R1) 	<ul style="list-style-type: none"> ・障害のある学生数が全国的に増加しているなか、障害のある学生や留学生など多様な学生に対する支援の充実が図られた。 															
	<ul style="list-style-type: none"> ・科学研究費補助金等の競争的外部研究資金に係る、応募及び獲得件数増加に向けた研究支援体制を充実させる。(No.70) 	<p><科学研究費補助金獲得に向けた支援></p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部講師による学内研修会、個別面談の実施 ・We b 添削システム (H30～)、解説動画の配信サービス (R1～) の提供 ・科学研究費補助金・再チャレンジ支援制度の導入 (H28～) 	<ul style="list-style-type: none"> ・科学研究費補助金新規獲得件数の増 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総数</td> <td>33</td> <td>34</td> <td>39</td> <td>45</td> </tr> <tr> <td>うち新規</td> <td>3</td> <td>5</td> <td>8</td> <td>8</td> </tr> </tbody> </table> <p>※応募する教員の割合を増やす必要がある。</p>		H28	H29	H30	R1	総数	33	34	39	45	うち新規	3	5	8	8
	H28	H29	H30	R1														
総数	33	34	39	45														
うち新規	3	5	8	8														
課題		<ul style="list-style-type: none"> ・文化政策研究科定員未充足 ・デザイン研究科定員超過 (大学院学生数：人) <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>文政</td> <td>16</td> <td>13</td> <td>11</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>デザイン</td> <td>21</td> <td>22</td> <td>31</td> <td>31</td> </tr> </tbody> </table> <p>※収容定員…各 20 人</p>		H28	H29	H30	R1	文政	16	13	11	12	デザイン	21	22	31	31	<ul style="list-style-type: none"> ・十分な教育を実施するため、定員管理を適正に行う必要がある。
		H28	H29	H30	R1													
	文政	16	13	11	12													
デザイン	21	22	31	31														
	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業生に対するリカレント教育の実施を検討し、可能であれば具体案を作成する。(No.24) ・英語・中国語教育センター及び両研究科の活動への卒業生の参加を可能にする等、リカレント教育を実施する。(No.63) 	<ul style="list-style-type: none"> ・SUAC エグゼクティブ・プログラムの実施 (H28・29) ・文化政策研究科・デザイン研究科の教員が合同で、社会人や大学院生の参加を募り、共同プロジェクト実践演習を実施 ・新たな大学院の構想において、リカレント教育を取り込む予定 	<ul style="list-style-type: none"> ・SUAC エグゼクティブ・プログラムは H29 年年度に終了、文芸大大学院修了生が代表理事を務める外部団体へ事業を継承 ・人生 100 年時代を向かえリカレント教育の必要性が高まっている。(社会人入学生数：人) <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学部</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>大学院</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>		H28	H29	H30	R1	学部	1	2	0	0	大学院	2	0	0	0
	H28	H29	H30	R1														
学部	1	2	0	0														
大学院	2	0	0	0														
	<p>(認証評価での指摘事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成績評価等の客観性、厳格性を担保するための組織的な措置が十分講じられていない。 ・明確な成績評価基準が組織として策定されていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・FD委員会において、成績分布状況の把握、成績評価基準の課題整理を進めている。 ・デザイン研究科において、修士論文・修士制作の審査基準を設けた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学科、専門分野、科目の事情を考慮しつつも、成績評価基準に関する全学的なガイドラインを設けるとともに、成績分布の適切性や妥当性の検討など事後検証を行い、成績評価の客観性を担保する組織的な取組が必要 															

○地域貢献

	中期計画項目	取組・実績等	成果・課題の現れ															
成果	<ul style="list-style-type: none"> 研究成果を地域社会に還元し、地域課題の解決や活性化に取り組む。(No.76) 「地域連携実践演習」などの科目を通じて、学生が地域の課題を理解し、その解決に向けた方策を企画立案・実践することによって、大学と地域のつながりを強化する。(No.77) 地域の自治体・企業との連携 (No.78～80) 県との連携 (No.81) 	<ul style="list-style-type: none"> 地域課題解決に向けた調査研究の実施 耕作放棄地再生プロジェクト、浜松・浜名湖エリア観光ニーズリサーチ等の地域連携演習等の実施 自治体等からの受託事業等の積極的受入れ 浜松市とともにフェアトレード推進活動を展開、浜松市 SDGs 推進プラットフォームへ加入 審議会・委員会等への参加・協力 	<ul style="list-style-type: none"> ①受託事業等の件数、②審議会等への参加・協力実績の増 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①</td> <td>26</td> <td>23</td> <td>21</td> <td>21</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td>235</td> <td>214</td> <td>242</td> <td>278</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 観光教育やフェアトレード推進活動などを通じ、産学官連携を推進している。 		H28	H29	H30	R1	①	26	23	21	21	②	235	214	242	278
		H28	H29	H30	R1													
①	26	23	21	21														
②	235	214	242	278														
<ul style="list-style-type: none"> 静岡県立大学との連携強化 (No.82) ふじのくに地域・大学コンソーシアムの活動への積極的参画、同西部地域連携事業実施委員会事務局として西部地域の大学間連携を積極的に推進 (No.83) 	<ul style="list-style-type: none"> 静岡大学、静岡県立大学、賀茂地域1市5町の包括連携協定を締結 静岡県立大学と連携し、観光教育スタートアップ授業を実施 西部地域連携事業実施委員会事務局として、ふじのくに地域・大学コンソーシアムの大学共同授業、FD 情報交換会を実施 	<ul style="list-style-type: none"> 観光教育をはじめ、県立大学との連携強化が図られている。 ※農林環境専門職大(R2～)や社会健康医学大学院大学(R3～)など大学が地域に新しく設置されることから、より一層の大学間連携の推進が期待される。 																
課題	<ul style="list-style-type: none"> 学生の県内への定着を図るため、県内の行政機関等と連携して、学生に対し県内の魅力的な企業を紹介し、学生の県内企業への認識を深める。(No.60) 	<ul style="list-style-type: none"> 自治体や商工会議所等と連携し、県内企業の魅力を発信するイベントを実施した。(業界研究会、地域別企業セミナー) 	<ul style="list-style-type: none"> 県内企業の魅力発信に努めているものの、県内就職率が低下傾向 <p>(県内就職率：%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>41.2</td> <td>37.6</td> <td>33.8</td> <td>36.7</td> </tr> </tbody> </table>	H28	H29	H30	R1	41.2	37.6	33.8	36.7							
H28	H29	H30	R1															
41.2	37.6	33.8	36.7															

○グローバル化

	中期計画項目	取組・実績等	成果・課題の現れ																
成果	<ul style="list-style-type: none"> 地域企業と連携して、語学修得だけに留まらない海外インターンシップを推進する。(No.79、87) 経済的な理由で留学が難しい学生を支援するため、各種の奨学金を活用する。(No.88) 	<ul style="list-style-type: none"> 大学独自の海外インターンシップの開拓 (シンガポール) 海外留学支援特別奨学金 (交流協定校への派遣留学生)、文芸大基金による海外留学奨学金 (6 ヶ月以上の留学) イズミル経済大学 (トルコ) との産学共同国際ワークショップの開催 留学生トータルサポートプログラムの提供 (海外旅行保険・電話サポート、保険料の割引) 	<ul style="list-style-type: none"> 海外派遣学生数、外国人留学生数の増加 <p>(海外派遣学生数：人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>74</td> <td>67</td> <td>73</td> <td>89</td> </tr> </tbody> </table> <p>(外国人留学生数：人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>33</td> <td>35</td> <td>37</td> <td>46</td> </tr> </tbody> </table>	H28	H29	H30	R1	74	67	73	89	H28	H29	H30	R1	33	35	37	46
H28	H29	H30	R1																
74	67	73	89																
H28	H29	H30	R1																
33	35	37	46																
課題	<ul style="list-style-type: none"> 留学生宿舎の確保、海外に向けた広報活動の展開などにより、外国人留学生数を増加させる。(No.91) 	<ul style="list-style-type: none"> 民間アパートの借り上げにより、交換留学生用宿舎を提供 留学生用宿舎として、県営住宅への居住を試行(H29) 	<ul style="list-style-type: none"> 外国人留学生数は順調に増加しているものの、通学距離や畳アレルギーなどにより、留学生宿舎として県営住宅の活用が困難であったため、外国人留学生に対する生活環境の整備が課題 																

○法人経営

	中期計画項目	取組・実績等	成果・課題の現れ																									
成果	<ul style="list-style-type: none"> 法人経営・大学運営について、引き続き理事長・学長のガバナンスが十分機能するよう充実・強化を図り、本学にふさわしい法人経営、大学運営を推進する。(No.95) 	<ul style="list-style-type: none"> 役員会、経営審議会、教育研究審議会及び大学運営会議における、経営と教学の役割分担と協調体制のもとに、理事長・学長のガバナンスが機能 大学が目指す将来構想の実現のため、役職教員の人事において、新たな人材を登用 	<ul style="list-style-type: none"> 大学が目指す将来構想の実現のため、理事長・学長のリーダーシップが発揮されている。 ※経営判断に資する戦略的運営の基礎データを集約・分析・提供する I R 業務を強化する必要がある。 																									
	<ul style="list-style-type: none"> 複数年度契約を含む外部委託・人材派遣等のアウトソーシングを推進し、事務処理の効率化を図る。(No.108) 科学研究費補助金等の外部研究資金、共同研究・受託事業等の拡大による自己収入の獲得を推進する。(No.113) 管理的経費は、平成 33 年度において、平成 28 年度に比して 5 % 以上の削減を目指す。(No.118) 	<ul style="list-style-type: none"> 業務のアウトソーシング化（年末調整業務） 時間外勤務管理システムの導入（H30～） 静岡文化芸術大学基金の設置（H29～） 科研費獲得に向けた支援体制の充実、受託事業等の積極的受入れ 教員が経費の執行状況を即時に確認できる新財務会計システムの導入（R2～） 事務局 P C 更新時の仕様（CPU）の見直し（R1） 	<ul style="list-style-type: none"> 時間外勤務時間数の減少 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>12,303</td> <td>13,650</td> <td>13,039</td> <td>11,323</td> </tr> </tbody> </table> 外部資金の受入れの増加（千円） <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>67</td> <td>66</td> <td>67</td> <td>75</td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td>53,502</td> <td>65,333</td> <td>46,404</td> <td>56,603</td> </tr> </tbody> </table> ※受託・共同研究費、受託事業、科研費、財団等助成金、研究奨励寄附金等 財務会計システムの保守管理費の削減（毎年▲3,245 千円） 事務局 P C 更新経費の削減（約▲4,000 千円） 		H28	H29	H30	R1		12,303	13,650	13,039	11,323		H28	H29	H30	R1	件数	67	66	67	75	金額	53,502	65,333	46,404	56,603
		H28	H29	H30	R1																							
	12,303	13,650	13,039	11,323																								
	H28	H29	H30	R1																								
件数	67	66	67	75																								
金額	53,502	65,333	46,404	56,603																								
<ul style="list-style-type: none"> 監査機能を強化するため、公認会計士等の専門家の支援を仰ぐとともに、監査組織を設置する。(No.111) 	<ul style="list-style-type: none"> 監査室の設置（H28） 監査担当参事（公認会計士）の任用 	<ul style="list-style-type: none"> リスクアプローチの手法による効果的な監査など、監査機能の強化が図られた。 																										
課題	<ul style="list-style-type: none"> 的確に事務処理が遂行できる専門性と使命感を持った人材を、業務内容の特性に応じて、適切かつ柔軟な雇用形態で採用する。(No.102) S D 活動を推進し、外部研修、学内研修、O J T 等の研修を充実するとともに、他大学等との人事交流等による人材育成を行う。(No.104) 	<ul style="list-style-type: none"> プロパー職員の計画的な採用、修学支援専門員の設置や有期契約職員の試験選抜による無期化等、専門性と使命感を持つ職員の確保及び雇用の安定に努めた。 学内 S D 研修計画に基づき研修会を実施したほか、公立大学協会等の学外機関主催の研修会に職員を積極的に派遣した。 	<ul style="list-style-type: none"> プロパー職員の計画的な採用が進むなか、創立 20 年を迎え、室長クラスのプロパー職員が増えている。法人経営や管理の視点を備えた人材の育成を行っていく必要がある。 																									
	<ul style="list-style-type: none"> 人材の確保、組織力の向上等の観点から、メンター制度の導入、保育所の設置など、女性教職員が活躍できる環境整備策を検討し、可能なものから実施する。(No.105) 	<ul style="list-style-type: none"> 男女共同参画に関する学内委員会の立ち上げ 一時保育利用料の補助を実施 育児に携わる職員の入試業務の免除を実施 	<ul style="list-style-type: none"> 育児支援体制の充実が図られたものの、育児だけではなく、介護と仕事の両立支援など、誰もが働きやすい職場環境の整備が必要 																									

○自己点検・評価及び情報提供、その他

	中期計画項目	取組・実績等	成果・課題の現れ								
成果	<ul style="list-style-type: none"> 大学の知名度向上、優秀な学生確保に向けた戦略的な広報展開 (No.121、122) 広報対象に応じた的確な広報ツールの活用 (No.123) 	<ul style="list-style-type: none"> 県政記者クラブ、浜松市市政記者クラブへの積極的な情報提供 大学の特徴である実践的な学びを特集した広報誌「SUACTION」の作成 新生へへのアンケート調査をもとに、ツイッターの運用を開始。学生と協働してSNSを運用した。 	<ul style="list-style-type: none"> 積極的な記者提供やSNSの活用により、広報の充実が図られた。 <p>(新聞掲載件数：件)</p> <table border="1"> <tr> <td>H28</td> <td>H29</td> <td>H30</td> <td>R1</td> </tr> <tr> <td>252</td> <td>251</td> <td>227</td> <td>188</td> </tr> </table>	H28	H29	H30	R1	252	251	227	188
	H28	H29	H30	R1							
252	251	227	188								
	<ul style="list-style-type: none"> 大規模地震・災害等による大学運営への影響を最小限に止めるため、学内の防災・減災対策の充実を図るとともに、日頃から防災訓練等を行い、発災に備えた防災体制を整備する。(No.132) 	<ul style="list-style-type: none"> 熊本地震における大学の対応状況の調査、学内SD研修会の開催 大規模災害対応マニュアルの作成 大規模災害発生時の大学間連携実現に向け、公立大学と大学の災害対策事例を共有 原子力災害発生時における避難所としての施設の使用について、浜松市と覚書を締結し、地域社会と一体となった防災の取組を推進 	<ul style="list-style-type: none"> 学内の危機管理体制の強化が図られた。 <p>※地震や風水害に加え、感染症等も含めた事業継続の対策が必要</p>								
課題	<ul style="list-style-type: none"> 学内施設等の利用状況を点検し、有効な利活用を検討するとともに、施設の老朽化、狭隘化等に計画的に対応するなど、ファシリテイ・マネジメントの取組を推進する。(No.127) 	<ul style="list-style-type: none"> 平成28年度に劣化診断を実施し、大規模修繕に係る工事計画を定め、計画的な修繕を実施 	<ul style="list-style-type: none"> 創立20周年を迎え、今後、施設の老朽化が一層懸念される。 施設の長寿命化を図り、安全・安心かつ良好な教育・研究環境を確保する必要がある。 								
	<ul style="list-style-type: none"> 学生、教職員等が個人として尊重され、人権を侵害されることがないように、ハラスメント防止等の教職員、学生向けの研修会を開催するとともに、各種の情報提供を行う。(No.137) 	<ul style="list-style-type: none"> ハラスメント行為の発生 (2期中の懲戒処分の件数：3件) 学外相談窓口の設置 (H29～) 相談窓口の周知 (カードの配架、大学HPへの掲載) 相談員等対象ハラスメント研修会の実施 (H30～) 	<ul style="list-style-type: none"> ハラスメントの根絶に向け、実効性のある対策を実施する必要がある。 								